

令和2年度（2020年度）
金沢大学大学院法務研究科
入学試験問題
憲 法

B 日程入試

（注意）

1. 問題冊子（表紙を含む）は2枚です。
2. 問題冊子は指示があるまで開かないで下さい。
3. 問題冊子と下書き用紙は持ち帰って下さい。
4. 解答は、鉛筆、シャープペンシル、ペン、ボールペンのいずれで記入しても構いません。
5. 解答にあたっては、どの問題から解答しても構いません。ただし、どの問題についての解答であるのかを答案中に明示してください。

令和2年度（2020年度）金沢大学大学院法務研究科入学試験問題

| | | |
|------|---|---|
| 試験科目 | 憲 | 法 |
|------|---|---|

以下の問題について解答しなさい。

問題1（20点）

次の事例を読み、この事例に含まれる憲法上の権利の保障について論じなさい。

Aは生まれたときには男性であったが、心は女性である性同一性障害者である。成人した後、Aはずっと女性ホルモン治療を受け、服装や言葉遣い、立居振舞いなどすべてを女性として過ごしており、数年前に性別適合手術を受け、戸籍も女性に変更した。

Aは勤務先でトラブルになった際、相手に怪我を負わせてしまい、傷害の容疑で身柄を拘束された。戸籍変更がされていることから女性用の拘置所に入れられたが、ホルモン治療にかんしては「性同一性障害は病気ではなく、ホルモン治療を実施しなくても収容生活上直ちに回復困難な損害が生じるものではない」という理由で医療上の措置の範囲外とされ、認められなかった。Aは手術によって、体内で性ホルモン生成ができない状態にあり、ホルモン治療を受けられないことで、実際にうつや不眠、めまい、頭痛などの体調不良、異常な言動など、性ホルモンの不足による症状が出ている。

問題2（5点）

衆議院において、総議員の4分の1以上の野党議員により臨時会の開催を要求したが、4か月後に常会が開催されることを理由に、内閣は応じなかった。このことは憲法上どう評価されるか、説明しなさい。